

アジア・アフリカ学術基盤形成事業 平成23年度 実施計画書

1. 拠点機関

日本側拠点機関:	大阪大学
(ザンビア) 拠点機関:	ザンビア大学
(南アフリカ) 拠点機関:	フリー・ステート大学
(タンザニア) 拠点機関:	国際関係センター

2. 研究交流課題名

(和文) : 南部アフリカにおける「平和のオアシス」形成に向けた研究ネットワークの制度化

(交流分野: 政治学)

(英文) : Towards the development of an 'oasis of peace' through the institutionalization of a research network in southern Africa

(交流分野: Politics)

研究交流課題に係るホームページ: [http:// www.osipp.osaka-u.ac.jp/oasisofpeace/](http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/oasisofpeace/)

3. 採用年度

平成23年度 (1年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関: 大阪大学

実施組織代表者 (所属部局・職・氏名): 総長・鷲田清一

コーディネーター (所属部局・職・氏名): 国際公共政策研究科・准教授・Hawkins, Virgil

協力機関: なし

事務組織: 大阪大学国際部国際交流課国際交流推進係、大阪大学経済学研究科・国際公共政策研究科事務部

相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国 (地域) 名: ザンビア

拠点機関: (英文) University of Zambia (UNZA)

(和文) ザンビア大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名): (英文) School of Humanities and Social Sciences・Professor・Phiri, Bizeck

協力機関：(英文) Zambia Open University (ZAOU)
(和文) ザンビア・オープン大学

(2) 国(地域)名：南アフリカ

拠点機関：(英文) University of the Free State
(和文) フリー・ステート大学

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Department of Political Science・Senior
Professor・Solomon, Hussein

協力機関：(英文) University of Pretoria
(和文) プレトリア大学

(3) 国(地域)名：タンザニア

拠点機関：(英文) Centre for Foreign Relations
(和文) 国際関係センター

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Centre for Foreign Relations・Lecturer・
Shahari, Riziki

協力機関：(英文) なし
(和文) なし

5. 全期間を通じた研究交流目標

度重なる武力紛争と人道危機を経験した南部アフリカ地域において紛争を收拾し、持続的な平和と発展を確保することは、最も重要で喫緊の基盤的研究課題の一つといえる。本事業は、平和国家として平和の尊さを知り、武力による問題解決の愚かさを知る日本側研究者が主導し、日本と南部アフリカを結び、紛争解決と平和の持続化に高度な知的貢献のできる研究者の育成とネットワーク化を研究交流目的とする。具体的には、ザンビアのパートナー大学と密接に連携し、ザンビアに南部アフリカ地域ワイドで紛争と平和に関する研究拠点となる「平和のオアシス研究所」(仮称)を設立し、それと大阪大学大学院国際公共政策研究科(OSIPP)をハブとする日本側の紛争研究コミュニティとをつないだ学術基盤を形成することを構想している。この学術基盤を通じ、日本側は学術的知見を南部アフリカへの提供するほか、紛争の現場に生きる南部アフリカの研究者との直接的・継続的な知的交流で、若手を含む日本側研究者の研究の深化も期待できる。

南部アフリカでは未だ研究交流・発信の機会が限定的で、長年の紛争と平和活動から得た知識・経験・教訓が豊富に存在するが、相互に共有されていない。ここで地域の研究者間のネットワーク化が制度化できれば、これらの「知的財産」の共有が一気に進む潜在性がある。この点、ザンビアは、まさに「平和のオアシス」として、周りを紛争経験国に囲まれながらも平和と政治的安定を確保しており、地域の若手を含む研究者を結

ぶハブとなる格好の環境を備えている。日本の研究者にとっても、ザンビアは、アフリカについて学ぶ上で、紛争の現場情報へのアクセスや現地の研究者との交流のため有益な拠点として機能しうる。

日・ザンビアの両拠点間で共同研究（平成 23 年度には「紛争と仲介」、24 年度には「平和維持・強制」、25 年度は「平和構築：持続的な平和と発展の実現」をトピックに予定）を進め、実際の研究会合に加え、新規に編集するオンライン・ジャーナルやウェブを通じた成果の検討や公表を進める。

持続的な平和と発展に向けて日・南部アフリカ間の高度な知の集積と交換に弾みつけ、「平和のオアシス」を南部アフリカ・ワイドに広げることに日本が手を貸すことができたならば、大きな知的成果と言えよう。

6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

平成 23 年度から開始。

7. 平成 23 年度研究交流目標

本事業の最終的目標のひとつは南部アフリカ地域ワイドで紛争と平和に関する研究拠点となる「平和のオアシス研究所」（仮称）をザンビアに設立することであるが、平成 23 年度にはザンビア大学及びザンビア・オープン大学を中心に設立準備室を開設することを目標とする。これには南部アフリカ諸国からのインプットだけでなく、ザンビア国内の研究者間の交流が重要となる。共同研究、ザンビアで実施するセミナー、研究者交流を機に準備を進める。

学術的観点からの目標としては、共同研究とセミナーを通じて、南部アフリカの国々がこれまで経験してきた紛争への仲介・和解の試みに関する分析を行い、その成果と課題を明らかにし、まとめる。又、オンライン・ジャーナルの設置を通じて、その研究成果を発信し始めることも目標とする。

若手研究者養成という観点からの目標としては、平成 23 年度の派遣研究者の内、2 人（日本と南アフリカから各 1 名ザンビアに派遣する研究者）を若手研究者とする。これらの若手研究者は共同研究およびセミナーに参加する。また、研究者の派遣先の大学で講演会を開くことを通じて、日本及び南部アフリカ内の若手研究者の南部アフリカにおける紛争と平和の問題に関する意識・関心を高めることも目標とする。

8. 平成 23 年度研究交流計画概要

8-1 共同研究

平成 23 年度の共同研究のテーマは「南部アフリカにおける紛争仲介・和解」(Mediation and Peacemaking in Southern Africa) とする。ザンビア政府はアンゴラ、コンゴ民主共和国の紛争の仲介を試みたこともあり、ザンビアを拠点とし共同研究を進

めることには大きな意義がある。本事業の企画に参加していない南部アフリカ及び日本の紛争研究者を含め、参加を呼び掛ける。参加者は紛争仲介・和解の概念・課題、あるいは南部アフリカの地域における紛争仲介・和解の事例を中心に研究を進める。

これらの研究者が交流するためのウェブサイトも設置する。このウェブサイトを通じて意見交換・協議及び研究者の派遣によって、共同研究の計画を固め、下記のセミナーに向けて研究を進める。また、このウェブサイトにはオンライン・ジャーナルを設置し、研究の成果を発信する。各参加者は研究の成果を論文の形でまとめ、随時、オンライン・ジャーナルに掲載する。

また、共同研究の計画・実施、調査のために、日本及び南部アフリカの相手国からの研究者がザンビアを訪問する。又、ザンビアから副拠点となる南アフリカへの派遣も実施する。派遣先では、研究の成果を共有するための講演会を実施する。

8-2 セミナー

「南部アフリカにおける紛争仲介・和解」をテーマにした共同研究の成果を協議し、まとめ、発信するために、2011年9月、ルサカ（ザンビア）で2日間のセミナーを開催する。拠点機関となっているザンビア大学は日本側のコーディネーター及び協力機関であるザンビア・オープン大学のサポートを受け、実施する。

日本から2名の研究者、南アフリカ、タンザニア、その他の南部アフリカ諸国（ナミビア、ボツワナ、モザンビーク、ジンバブエ、マラウイ、アンゴラ、コンゴ民主共和国）から各1名の研究者が参加者となる。また、ザンビア国内の参加者としては、研究者のみならず、実践に携わる政策決定者やNGOなどからも参加者を求める。セミナーの形式としては、個人によるプレゼンテーション及びラウンドテーブルの協議を用いる。セミナーの成果をオンライン・ジャーナルで発信する。

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

研究者交流のために、日本と南部アフリカの間、研究者の派遣をする。日本から南部アフリカ（ザンビア）には2名、南部アフリカ（南アフリカ）から日本には1名の研究者を派遣し、講演会及び派遣先での研究者・学生との交流を実施する。研究者交流を通じて、日本・南部アフリカにおける若手研究者及び学生に南部アフリカの紛争と平和の問題への関心を高める。

また、「平和のオアシス研究所」の設立を目指し、ザンビア大学及びザンビア・オープン大学が中心となり、日本側のコーディネーター（1名）を派遣し、そのサポートを得て、設立準備室を開設する。

9. 平成23年度研究交流計画総人数・人日数

9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 〈人／人日〉	ザンビア 〈人／人日〉	南アフリカ 〈人／人日〉	タンザニア 〈人／人日〉	〈人／人日〉	合計
日本 〈人／人日〉		5/35				5/35
ザンビア 〈人／人日〉			1/7			1/7
南アフリカ 〈人／人日〉	1/21	3/14				4/35
タンザニア 〈人／人日〉		2/9				2/9
ジンバブエ、マラウイ、 ボツワナ、コンゴ民主共 和国、モザンビーク (ザンビア側)		7/33				7/33
ナミビア (南アフリカ側)		1/5				1/5
合計 〈人／人日〉	1/21	18/96	1/7			20/124

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は()をのぞいた人・日数としてください。)

9-2 国内での交流計画

5/5 〈人／人日〉

10. 平成23年度研究交流計画状況

10-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成23年度	研究終了年度	平成23年度	
研究課題名	(和文) 南部アフリカにおける紛争仲介・和解 (英文) Mediation and Peacemaking in Southern Africa					
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) ホーキンス、ヴァージル・大阪大学・准教授 (英文) Hawkins, Virgil・Osaka University・Associate Professor					
相手国側代表者 氏名・所属・職	Phiri, Bizeck・ザンビア大学・教授 Solomon, Hussein・フリー・ステート大学・教授 Shahari, Riziki・国際関係センター・講師					
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流					
	派遣先 派遣元	日本 人/人日	ザンビア 人/人日	南アフリカ 人/人日	タンザニア 人/人日	計 人/人日
	日本 <人/人日>					
	ザンビア <人/人日>			1/7		1/7
	南アフリカ <人/人日>		1/4			1/4
	タンザニア <人/人日>		1/4			1/4
	ジンバブエ, ボツワナ (ザンビア側)		2/8			2/8
	合計 <人/人日>		4/16	1/7		5/23
	② 国内での交流 0/0 <人/人日>					
23年度の研 究交流活動計画	参加者は紛争仲介・和解の概念・課題、あるいは南部アフリカの地域における紛争仲介・和解の事例を中心に研究を進める。研究者の派遣及びウェブサイトなどを通じた交流を実施する。論文という形でまとめる。					
期待される研 究活動成果	南部アフリカの国々がこれまで経験してきた紛争仲介・和解の試みに関する分析が行われ、その成果と課題が明らかになり、まとめら					

	れることである。具体的には、紛争仲介・和解の理解に貢献する南部アフリカを中心としたケーススタディ及び概念に関する研究成果が論文というかたちで、事業で立ち上げるオンライン・ジャーナルに掲載される。	
日本側参加者数		
	2 名	(13-1 日本側参加者リストを参照)
(ザンビア) 国 (地域) 側参加者数		
	9 名	(13-2 (ザンビア) 国 (地域) 側参加者リストを参照)
(南アフリカ) 国 (地域) 側参加者数		
	3 名	(13-3 (南アフリカ) 国 (地域) 側参加者リストを参照)
(タンザニア) 国 (地域) 側参加者数		
	1 名	(13-4 (タンザニア) 国 (地域) 側参加者リストを参照)

10-2 セミナー

—実施するセミナーごとに作成してください。—

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 南部アフリカにおける紛争仲介・和解
	(英文) Mediation and Peacemaking in Southern Africa
開催時期	平成 23 年 9 月後半 (2 日間)
開催地 (国名、都市名、会場名)	(和文) ザンビア、ルサカ、会場名は未定
	(英文) Zambia, Lusaka, venue not decided
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) ホーキンス、ヴァージル・大阪大学・准教授
	(英文) Hawkins, Virgil・Osaka University・Associate Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	Phiri, Bizeck ・ザンビア大学・教授

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (ザンビア)	
	A.	
日本 〈人／人日〉	A.	2/10
	B.	0/0
	C.	0/0
ザンビア 〈人／人日〉	A.	0/0
	B.	0/0
	C.	8/24
南アフリカ 〈人／人日〉	A.	2/10
	B.	0/0
	C.	0/0
タンザニア 〈人／人日〉	A.	1/5
	B.	0/0
	C.	0/0
ジンバブエ、マラウイ、ボツワナ、 コンゴ民主共和国、モザンビーク (ザンビア側) 〈人／人日〉	A.	5/25
	B.	0/0
	C.	0/0
ナミビア (南アフリカ側) 〈人／人日〉	A.	1/5
	B.	0/0
	C.	0/0
合計 〈人／人日〉	A.	11/55
	B.	0/0
	C.	8/24

A.セミナー経費から負担

B.共同研究・研究者交流から負担

C.本事業経費から負担しない（参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。）

セミナー開催の目的	平成 23 年度の共同研究のテーマである「南部アフリカにおける紛争仲介・和解」(Mediation and Peacemaking in Southern Africa)の成果をまとめ、発信することをセミナーの目的とする。具体的には、紛争仲介・和解の概念・課題、あるいは南部アフリカの地域における紛争仲介・和解の事例について理解を深めることである。また、「平和のオアシス研究所」の設立に向けて協議を行い、準備を進めることも目的とする。		
期待される成果	南部アフリカ及び日本の紛争・平和研究者の間の交流が行われ、紛争仲介・和解の概念・課題、または南部アフリカの地域における紛争仲介・和解の事例について理解が深まる。また、「平和のオアシス研究所」の設立に向けて、設立準備室を含め、具体的な構造が打ち出される。		
セミナーの運営組織	拠点機関となっているザンビア大学は日本側のコーディネーター及び協力期間のザンビア・オープン大学のサポートを受け、実施する。		
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	内容	金額
		外国旅費	2,200,000 円
		謝金	12,000 円
		消耗品購入費	100,000 円
		その他経費	340,000 円
	(ザンビア) 国 (地域) 側	内容	金額 0 円
	(南アフリカ) 国 (地域) 側	内容	金額 0 円
	(タンザニア) 国 (地域) 側	内容	金額 0 円

10-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

① 相手国との交流

派遣先 派遣元	日本 〈人/人日〉	ザンビア 〈人/人日〉	計 〈人/人日〉
日本 〈人/人日〉		3/25	3/25
ザンビア 〈人/人日〉			
南アフリカ 〈人/人日〉	1/21		1/21
合計 〈人/人日〉	1/21	3/25	4/46
② 国内での交流		5/5 〈人/人日〉	

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣時期	用務・目的等
① 相手国との交流			
フリー・ステート大学・教授・フセイン・ソロモン	日本・大阪・大阪大学	2011年7月	日本で紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換をする。また、日本の大学で南部アフリカの紛争・平和に関する講演会を実施する。
大阪大学・教授・星野俊也	ザンビア・ルサカ・ザンビア大学	2011年8月	ザンビアで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換をする。また、紛争仲介・和解に関する講演会を実施する。
大阪大学・准教授・ヴァージル・ホーキンス	ザンビア・ルサカ・ザンビア大学	2011年8月	ザンビアで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換をする。オンライン・ジャーナルを広く広報し、投稿の呼びかけも行う。また、紛争仲介・和解に関する講演会を実施する。
大阪大学・准教授・ヴァージル・ホーキンス	ザンビア・ルサカ・ザンビア大学	2012年2月	「平和のオアシス研究所」の設置に向けた活動について協議し、平成24年度の事業企画・活動評価も行う。また、紛争仲介・和解に関する講演会を実施する。

② 国内での交流			
大阪大学・准教授・ヴァージル・ホーキンス	日本・大阪・大阪大学	2011年7月	「相手国との交流」で来日しているフセイン・ソロモン教授とパネルを組み紛争・平和に関する発表を行い・ラウンドテーブルセッションに参加する。
大阪大学・教授・栗本英世	日本・大阪・大阪大学	2011年7月	「相手国との交流」で来日しているフセイン・ソロモン教授とパネルを組み紛争・平和に関する発表を行い・ラウンドテーブルセッションに参加する。
大阪大学・教授・松野明久	日本・大阪・大阪大学	2011年7月	「相手国との交流」で来日しているフセイン・ソロモン教授とパネルを組み紛争・平和に関する発表を行い・ラウンドテーブルセッションに参加する。
大阪大学・教授・星野俊也	日本・大阪・大阪大学	2011年7月	「相手国との交流」で来日しているフセイン・ソロモン教授とパネルを組み紛争・平和に関する発表を行い・ラウンドテーブルセッションに参加する。
大阪大学・博士後期課程・佐藤智恵	日本・大阪・大阪大学	2011年7月	「相手国との交流」で来日しているフセイン・ソロモン教授とパネルを組み紛争・平和に関する発表を行い・ラウンドテーブルセッションに参加する。

1 1. 平成23年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	30,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	4,395,000	
	謝金	12,000	
	備品・消耗品購入費	100,000	
	その他経費	450,000	
	外国旅費・謝金等に係る消費税	0	
	計	4,987,000	研究交流経費配分額以内であること
委託手数料		498,700	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合計		5,485,700	

1 2. 四半期毎の経費使用見込み額及び交流計画

	経費使用見込み額 (円)	交流計画人数<人/人日>
第1四半期	265,000	2/11
第2四半期	3,872,000	19/95
第3四半期	450,000	3/12
第4四半期	400,000	1/11
合計	4,987,000	25/129